

石灰窒素施用と土壌反転作業の組合せによる茶の省力肥培管理技術

石灰窒素施用と乗用型土壌反転機の組合せで茶の収量・品質が向上し、中切り・深刈りの実施年(更新年)でも活用が可能

背景・目的

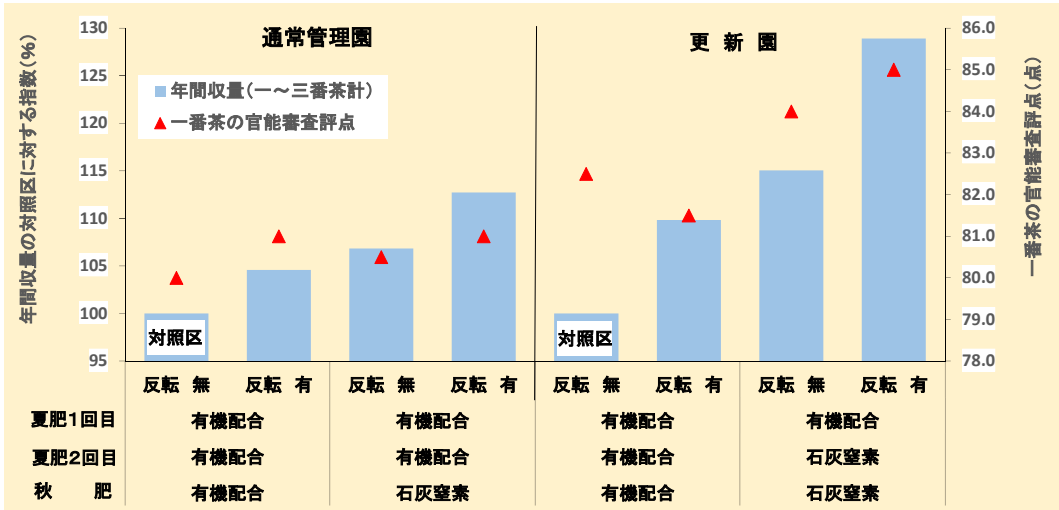
- ・茶園うね間の整せん枝残さ(未分解有機物)腐熟促進対策として、石灰窒素等の利用及び土壌との混和が有効
- ・しかし、茶園うね間の土壌反転・混和作業には多大な労力が必要
- ・既存の深耕機等(深さ30cm以上)による茶園うね間の土壌反転・混和は、断根による樹勢低下で、更新年は作業不可
- ・更新年でも茶園うね間の土壌混和处理が可能な省力技術が必要

成果の内容

石灰窒素施用と土壌反転作業を組合せた施肥管理法

通常管理園: 石灰窒素を秋肥施用+反転(秋肥後9月)

更新園: 石灰窒素を夏肥2回目(更新直後)と秋肥の2回施用+反転(秋肥後9月)



年間収量と一番茶品質

導入メリット

○通常管理園・更新園ともに収量増加, 品質向上

○茶園うね間を左右同時に反転・混和
○作業時間は24分/10aと省力的
○断根が少なく, 多量の整せん枝残さが発生する更新年でも活用可能

○土壌pHが矯正され無機態窒素含量, 根量が増加



乗用型土壌反転機



反転・混和後の茶園うね間土壌

期待される効果

収量・品質向上と作業労力低減による茶農家の経営安定化

鹿児島県農業開発総合センター生産環境部土壌環境研究室

普及対象・範囲 茶生産者

(環境と調和した栽培技術確立事業)